



# 相ノ木っ子だより



令和3年度  
3月号  
上市町立  
相ノ木小学校

## 「やればできる」自信が生み出す力



「がんばれー」「よっしゃー」「わー」

毎年開催され、いつも熱戦が繰り広げられ、参加者、観覧者に多くの感動をもたらしている相ノ木伝統の行事があります。今年第39回を迎えたけん玉大会です。子供たちが1年間地道に練習してきた成果を発揮できる場でもあり、そういった意味で、子供たちにとっては年間行事で一番大事なもののなかかもしれません。とは言え、新型コロナウイルスの感染が落ち着いていない状況であったため、今年は「もしかめの部」を体育の時間等を使って各学年で競い合いました。また「技の部」は、リモート中継しながら各教室で行い、「ふりけん」まで達成した者のみが体育館ステージに集まってさらに大会を進めました。一堂に会することができず、全校児童が同じ場で感動を共有できないことはとても残念であり、例年のような盛り上がりには欠けるのではないかと懸念もありました。しかし、そんな心配はありませんでした。ステージ上で真剣に挑む子供たちの姿と一人一人が繰り出す技は、これまでと何ら変わらず、いやそれ以上に素晴らしいものでした。そして、精鋭たちの熱い挑戦に対する応援や湧き上がる歓声は、遠く離れた教室からもしっかりと聞こえてきました。

それにしても、相ノ木っ子たちのけん玉技術は小学生レベルをはるかに超えており、本当に驚かされます。そして、とても難しい技を簡単そうに最初の一回で決める姿、チャンスはあと一回という瀬戸際に立ちながらも決め切る姿等、本番で見せる集中力と粘り強さは秀逸のものがあります。そういったスキルや力はどこから生まれてくるのでしょうか。もちろん日々けん玉にさわって、地道に練習しているからこそ培われるのですが、担任として5年、教頭や校長として5年、計10年相ノ木っ子のけん玉を見てきたわたしが考えるに、相ノ木っ子のけん玉技術の源は、練習に裏打ちされた自信にあると思います。業間活動や休み時間を使って、狭い所でもこつこつと何度も飽くことなくけん玉に興じる子供たち。入学してからその学年に至るまで何百回、何千回、何万回と挑戦してきたからこそ、自分を信じる力をもつことができ、本番で見せる底力につながるのだと思います。これは、東京オリンピックや北京オリンピックで活躍した選手たちと相通じるものがあるのではないのでしょうか。プレッシャーや緊張等、様々なものが本番で選手たちに襲い掛かってきます。その中でよいパフォーマンスを見せることができるのは、やはりこれまでやってきた過酷な練習であり、そこで生まれた自信のほうです。これが相ノ木っ子のけん玉大会でも起きている気がします。

アメリカン・フットボールの往年の名選手テリー・ブラッドショーは、次のように言っています。

すぐに思うようにいなくても諦めずに、黙々と技を磨け。  
自分を律することができるようになれば、  
驚くほど自信がついてくるものだ。



自分を律することができるほどのまじめさや努力の積み重ねが、大きな自信となってきます。そして、その大きな自信によって、人はものすごい力を生み出すことができ、さらなる自信をつけていくことになるでしょう。だからこそ、相ノ木っ子たちには、けん玉で築き上げた自信を他のものにも広げていってほしいですし、他のいろいろなことにも挑戦することで別の面での自信がもてるようになってほしいです。「やればできる」というフレーズで周りの人を元気づける芸人さんがいますが、「やってもむだだ」と考えるのではなく、「やってみることで、できるようになる」「やり続けることで、もっとできるようになる」といった考え方が大事なのではないのでしょうか。そして、少しでもできるようになった自分に自信をもち、もっともっとできるようになる自分を目指していけばいいですね。

相ノ木っ子のみんな、1年生の4月の時はけん玉の技術も自信もなかったよね。そのことを忘れず、しっかりと学び、練習、努力を積み重ね、謙虚だけれども大いなる自信をもつ自分でありましょう。



# 出会いと別れが人を成長させる

今月第1週はたいへんな1週間でした。自宅待機者や濃厚接触者が多く、各学年の教室が閑散としていました。自宅にいる子供たちとリモートで学習を共有しながら授業を進める日々でしたが、先週から徐々に登校してくる子供たちも増え、普段通りにぎやかな教室がもどってきました。ずいぶん暖かくなってきた陽気も相まって、ほっとするとともに何だか明るい気持ちになってきました。この間、保護者の皆さんにはいろいろと不安や心配が多かったと思いますが、子供たちをしっかりと支えていただき、ありがとうございました。また、今年度1年間、この相ノ木っ子だよりにお付き合いいただきましたこと、重ねて感謝します。

さて、延期していた卒業を祝う集会を11日に行うことができました。それぞれの学年が全員揃うことができず、十分な準備や練習を行えなかった中、5年生が中心となって相ノ木っ子たちらしい集会をつくり上げてくれました。「ありがとうの花」の歌と振り付けに緊張感とかわいらしさが溢れていた1年生。卒業生たちのキャラクターをうまく取り入れて楽しい演技を披露した2年生の劇「もも太郎ならぬイモ太郎」。卒業生の思い出をクイズで振り返らせる3年生「箱の中身はなんでしょう」。新たなけん玉の技の発表と卒業生のエピソードを大喜利で楽しく披露した4年生「四の一笑点劇場」。ギャグ満載で卒業生のエピソードを劇形式で楽しませた5年生「五年生劇場」。そして、卒業の喜びと在校生に託す思いを込めて秀逸した演奏を披露した6年生のお返し「JIN - 仁 - のテーマ曲」「夏祭り」「テキーラ」のメドレー。楽しんでもらえるよう出し物を工夫した在校生たちと祝ってもらおう嬉しさとともに一緒になって出し物を目いっぱい楽しんだ卒業生たち。「あとは任せてください。今までありがとうございました」「今日はありがとう。これからの相ノ木小学校を頼んだよ」そんな互いの気持ちが見えてくる集会でしたし、一人一人が自分の持ち味を生かしながら精一杯表現していました。そんな子供たちの姿を見ていて、集会の終わりにわたしは、賞賛と感謝の意を述べ、「自分を信じ、友達を信じて、これからも目いっぱい突き進んでほしい」と話しました。

学校という場における人と人とのつながりは、ある種の縁のような出会いにあるわけですが、一期一会の言葉にあるようにそれを大切にすることで子供たちは大きく成長します。ただ、別れというものはさらに大きなステップと成長を可能にしている気がします。

小説家・詩人である井上靖は、次のように言っています

小さな出会いを大切に育てていくことで、人生の中での大きな出会いとなる。

今回の祝う集会で、人と人とのつながりや気持ちの交流を子供たちは体験し、考える機会をもつことができました。それは、送る思いと託す思いを単に表したというものではありませんでした。同じ学校に通うという出会いを通して、濃厚なつながりと互いを大切にすることがあったからこそ、それぞれを成長させる別れをもつことができたのだと思います。もうすぐ卒業式。おめでとう門出となる卒業生と託された思いを引き継ぐ在校生には、思いやりの気持ちをもち続け、これからもたくさんの出会いを大切にしながらしっかりと歩いていき、人生のステップアップを図ってほしいと思います。

## 行事予定（3月中旬～4月中旬）

3月18日（金）	卒業証書授与式 給食なし	4月6日（水）	離任式 着任式 始業式
21日（月）	春分の日	7日（木）	入学式 給食なし
23日（水）	地区児童会 集団下校 14:30	15日（金）	学習参観 PTA総会 学級懇談会
24日（木）	修了式 離任式 下校1～4年 13:15 5年 14:00		
25日（金）	学年末休業（～4/5（火））		

